

湯河原ロータリークラブ



WEEKLY REPORT

ロータリーに 輝きを

第 2578回 例会
平成27年3月20日(金)
天候 曇り時々雨
合唱 それでこそロータリー
四つのテスト

会長 神谷 一博

幹事 深澤 昌光

事務所 神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内
TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716

例会場 静岡県熱海市泉 107 ニューウェルシティ湯河原
TEL 0465(63)3721 FAX 0465(63)6401

例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

65番目の「かながわロータリーEクラブ」のチャーターナイトの日程が、6/21(日)に変更となりました。横須賀のメルキュールホテルで11:00からです。

4/3(金)の箱根ロータリークラブのメークアップは新会員3名を含めて総勢9名になり、ガバナーとアレックス君と湯河原ロータリークラブの会員全員が出席すると36名の大所帯になります。当クラブの会員数も早く30名にする夢を見ながら望みたいと思っています。

3/17(火)は、公共イメージセミナーに浅田会員と行ってきました。約100人の各界のリーダーが出席し、居眠りする人もなくセミナーは予定時間を大幅に過ぎて終了しました。

アレックス青年は昨日元気に沖縄に向け出発し、あす夕方羽田に帰ってきます。また一回り大きくなって帰ってくる事でしょう。日本にも慣れてきたようで、最近は例の“やな顔”をしなくなりました。寝る子は育つと言いますが、相変わらず良く寝て、よく育っています。ロシアに帰ったら両親もびっくりするくらい成長していることでしょう。

幹事報告

ガバナーより

- 2015~16年度地区役員・委員会委員ご就任委嘱の件
公共イメージ委員会 委員 神谷一博
財団資金推進(ポリオプラスを含む)委員会
委員 渡辺久恭
- 2015-16年計画 2016-17年度実施予定の財団補助金
管理研修開催のお知らせ
日時: 4月4日(土) 13時00分~17時
場所: アイクロス湘南6階E号室
回答締め切り: 3月27日(金)

連絡事項 無し

スマイルBOX

会員誕生日 小松雄成君(3/25)
結婚記念日 深澤昌光君(3/2)
結婚記念日 佐藤泰文君(3/10)
結婚記念日 石川雅雄君(3/27)
夫人誕生日 石川雅雄君(暉子様・3/27)
小松雄成君 確定申告が無事に終わりました。
石田浩二君 箱根森のせせらぎにおいて露天風呂
付き客室を4部屋増室し本日オープン致します。
細谷信雄君 本日、私の妻が卓話をさせていただく
事となりました。よろしくお祈りします

| | | | |
|------|-----------------|---------|------------------|
| 出席報告 | ゲスト 2名 | ビジター 0名 | 会員 25名 |
| | 欠席 3(免除者 1名) | | 出席率 91.67% |
| | 前回の修正出席率 79.17% | | 前々回の修正出席率 82.61% |

事前メークアップ 0名

JCHO湯河原病院 横井 弥生 様
湯河原老人ホーム 細谷 良美 様

湯河原町の地域包括システム

～今できることを考える～

日本は世界に類を見ない早さで少子高齢化が進んでおり、2013年の65歳以上の高齢者は全体の25%で4人に1人が高齢者となり、団塊の世代が75歳以上になる2025年には31%で3人に1人が高齢者になると見込まれています。

湯河原町では、日本の平均よりも早く高齢化が進んでおり、2014年10月には35.4%と65歳以上の高齢者が既に3人に1人以上となっており、2025年には47.9%と約2人に1人が高齢者になると言われています。町全体の人口も2025年には23000人あまりになると見込まれており、一方で「認知症の高齢者」「高齢の単身世帯」「高齢者だけの世帯」はその数が益々増えるとも見込まれています。実際、高齢者の一人世帯の割合は、平成17年から22年の5年間で3倍になっており、高齢者夫婦の世帯も1.5倍近くに増えています。

このことは年金、医療、介護、と言った社会保障に大きな影響があります。現在の社会保障制度は、働き手が多い高度経済成長の頃に整備されたもので、9人で1人の高齢者を支えるいわゆる「胴上げ型」と呼ばれるものでした。それが最近では3人弱で支える「騎馬戦型」となり、2050年には1人で1人を支える「肩車型」になると懸念されています。この肩車型では、社会保障を維持していくことは大変難しく、制度改革をして支える人を増やすことが求められています。単純には人口が増えることが必要であり、働く人を増やすことも必要です。しかし、晩婚化が問題視され、少子化や女性の就労、ワークライフバランスといった雇用などの政策がありますが、十分な状況ではありません。

「肩車型」となる2050年に向けて昨年6月に「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」が成立しました。

国は、重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けることができるよう、住まい、医療、介護、予防、生活支援を一体的に提供できる体制の整備を目指しています。この体制を「地域包括ケアシステム」と言います。

高齢化の進展状況には大きな地域差がみられるため、「地域包括ケアシステム」は中学校区を単位として想定し、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要となります。湯河原町には中学校は1校なので湯河原町を一つの単位として地域包括ケアシステムの構築を目指すこととなります。

費用の負担からみると、「公助」は税金による公の負担、「共助」は介護保険などの制度としての負担、「互助」は共助と似ていますが制度的に裏付けがなく住民組織などによる助け合いで、「自助」は自分のことは自分ですることと市場サービスの購入も含まれます。

都市部では互助は機能しにくいと思われる一方で市場サービスが充実し自助によるサービスの購入が可能です。逆に町村部では民間市場が限定的な一方で互助の役割が大きいと思われれます。少子高齢化や財政状況から、共助、公助の大幅な拡充は残念ながら余り期待できません。自助や互助の果たす役割が大きくなることを前提としたケアシステムの構築が必要となります。

地域包括ケアシステムの構成図は、医療、介護、予防が植物で、生活支援は土、住まいが植木鉢、本人・家族の選択と心構えが植木鉢の下に敷かれているお皿となっています。このことは、「自分のことは自分で」や自分の選択には自分で責任を持つということを含んでいるので、まずは自助ということでしょう。

認知症や高齢者だけの世帯が増えることや孤独死や買い物難民など支援が必要な高齢者が増える一方で、家庭や地域の支える力は弱くなることが懸念されます。専門職でなくてもできる支え合い、見守りなどを元気な高齢者が担い手として活躍できる地域社会の実現が求められます。

ある日突然にできることではないからこそ、その構築のために取り組み始めなければなりません。

今年、第6期介護保険計画が策定されたのを機に地域のニーズ調査が行われています。また来週には、第1回目の地域ケア会議が介護保険に従事している人や民生委員とで開催されます。

これらを通して様々な地域の課題、要望が明らかになってくることでしょう。それらを満たすための地域にある資源、地域のリーダー、住民互助が検討され、協議を繰り返し、対応策が作り上げられていきます。これらを検証しながら繰り返して湯河原町らしい地域包括ケアシステムを作り上げていきます。どの自治体も同じですが、社会資源や専門職の不足、担い手の不足などまだまだ課題も多いのが実情です。

湯河原町には多くの公共施設があり、元気な高齢者もたくさんいらっしゃいます。多くの財源を使わず、町にあるこれらの資源を上手につなぎ合わせることができれば・・・と考えます。

本日をきっかけに、皆さんに地域包括ケアシステムを知っていただき、身近な問題として考えていただきたいと思います。

貴重なお時間を頂戴し、本当にありがとうございました。